

生誕百二十周年記念事業進行中



深田久弥

山の文化館だより

令和5年
夏号

深田久弥 山の文化館
〒921-0067
石川県加賀市大聖寺春場町十八
TEL 〇七六(七二)七二一三三
FAX 〇七六(七二)七二一八一



本年秋季に開催される「いしかわ百万石文化祭」の一環として、深田久弥生誕百二十年記念「深田久弥と日本百名山」と題する事業が行われます。秋の開催に先立ち、兼題「ふるさとの山」で俳句の募集が始まっています。インターネットを通じての応募が大半ですが、山の文化館への郵送分もあります。締め切りは七月三十一日と迫っています。

主体事業である講演会と座談会は、十月二十一日(土)萩原浩司氏(山と溪谷社)にご講演頂き、その後深田久弥と関わりのあった方たちとの座談会をして頂きます。またその会場で、俳句の入賞者表彰式も行われます。

翌日十月二十二日(日)には、例年四月に行われる「久弥祭」が行われます。今年は、この事業に合わせて秋の開催になりました。式典終了後の富士写ヶ岳登山には、萩原さんにも参加して頂けることになっています。



来場記念品の絵葉書に日記が印刷されていた。細かい字をルーペで読んでみると大聖寺での日常が書かれている。

関東大震災で被害が大きく、帰省していた時のもので、連日のように散歩と称して付近を歩き回っていた。それも一回が相当の距離で、健脚ぶりが窺われる。久弥さんの歩いたこれらのルートを辿ってみたいものである。



161冊

『アルバータ山のピッケル物語』と題する絵本がある。一九二五年、日本山岳会初の海外遠征隊が初登頂したカナダの山と、ピッケルにまつわる話である。このピッケルは、初登頂の記念にと山頂に残してきたものであるが、二十三年後、第二登を果たしたアメリカ隊が持ち帰った。しかし、引き抜く時に凍っていた石突部分は折れてしまった。アメリカの博物館で、その折れたピッケルに出会った芳賀孝郎氏の尽力で、行方不明だった石突部分が見つかった。そして無事、元の姿に復元され、カナダの博物館に展示されている。

この数奇なピッケルの物語は、芳賀孝郎夫人であり、初登頂隊の隊員であった三田幸夫氏の娘である芳賀淳子氏によって絵本となり、我々に語り掛けている。

深田久弥山の文化館では、この物語を紙芝居にし、子供たちに数奇なピッケルの物語と登山の世界観を伝えたいと考へ、活動を開始している。



久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と

その22

書込みのある地形図の中で身近なところ「立山」を取り出してみた。地勢図「高山」の五番である。広げてみると多くの赤鉛筆のラインと、地名にマークがあった。五色小屋、立山温泉、平ノ小屋にマークがしてあり、五色小屋から越中沢岳へスゴノ頭へのラインがある。地図の北側には奥大日岳に赤いマークが、剣御前小屋と剣岳には青鉛筆のマークがある。マークの色が違うのは登った時期が違うのだろうか。赤いラインは、立山弥陀ヶ原には追分小屋から獅子ヶ鼻岩を経て鏡石まで、地獄谷から雷鳥沢、そして剣御前小屋から奥大日岳、別山尾根を剣岳までと剣岳から平蔵谷を剣沢まで引かれている。今回は、立山、剣、奥大日に焦点を当てて調べてみよう。

昭和十五年七月弟弥之助と立山に登っている。この時はブナ坂から登り始め弘法小屋に泊まり、そして弥陀ヶ原、地獄谷、室堂を経て立山に登頂し、浄土山を回って室堂に下り一泊、翌日称名に下っている。弥陀ヶ原のラインはこの山行と一致する。この山行について書いた文章は『をちこちの山』の「立山」である。この中で「室堂までの道の立派になっているのには驚いた。三、四年前にここを降りてきた時とは全く別な感じである。」と書かれているので、調べてみた。しかし、大正八年の記録はあったが、そのほかは見つけられなかった。このラインはまた、昭和三十四年芦峠の佐伯延一さんとの奥大日岳行の時立山雄山を経由しており、このルートとも一致する。この時は、雄山の社務所に泊めてもらい、翌日別山乗越を経由して奥大日岳に登っている。そして、この時のことを「四度目の雄山である」と書いている。（「奥大日岳」）

昭和二十四年夏には、一人で剣岳に登っている。全七日の行程であった。粟巢野へ称名へ弘法小屋へ弥陀ヶ原へ雷鳥沢へ剣御前小屋と辿り、翌日剣岳に登り平蔵谷を下って、また剣御前小屋に泊まっている。その後、剣沢を下り、池の平小屋へ仙人谷へ阿曾原へ樺平へ祖母谷温泉へ宇奈月と辿っている。戦後、本格的登山への復帰であった。



間こう会予定

間こう会はリモートで二会場形式にて実施しています。（聴講無料）

午後一時半より三時
深田久弥山の文化館聴山房他

●七月十六日（日）

演題…県民の森と原生林探訪の魅力
講師…久保出小市氏（県民の森所長）

●八月二十日（日）

演題…山の文章を書く
講師…増永迪男氏（作家）

●九月十日（日）

演題…能登石動山の信仰について
講師…石森長博氏
（日本山岳修験学会会員）

●読書会のお誘い

『日本百名山』など深田久弥の作品を読んで、山やその自然、文化について語りあっています。お気軽にご参加下さい。（参加無料）

七月二十一日（金）

『日本百名山』より「朝日岳」

九月十五日（金）

『日本百名山』より「笠ヶ岳」

- 場所…深田久弥山の文化館
- 時間…午後一時半より三時

*詳細はホームページをご覧ください

編集後記

夏号をお届けします。山は異常に雪が少ない様です。六月末の白山でも例年になく雪が消えていました。山の文化館のイチヨウも、例年になくジュニドロップがありませんでした。秋のギンナンの出来はどうなるのでしょうか。 Y

各種お知らせ詳細はホームページをご覧ください

深田久弥山の文化館ホームページ <http://www2.kagacable.ne.jp/~yamabun>